

栗原市高清水

北甚六原遺跡発掘調査現地説明会資料

栗原市教育委員会

1. 調査要項

遺跡名 北甚六原遺跡（宮城県遺跡登録番号：44048）
 所在地 栗原市高清水北甚六原地内
 調査主体 栗原市教育委員会
 調査協力 宮城県教育委員会
 調査期間 平成21年4月7日～6月上旬予定
 調査面積 約15,200㎡

2. 遺跡周辺の中世遺跡

遺跡が所在する高清水地区は県内においても中世遺跡がまとまって確認されている地域です。

観音沢遺跡

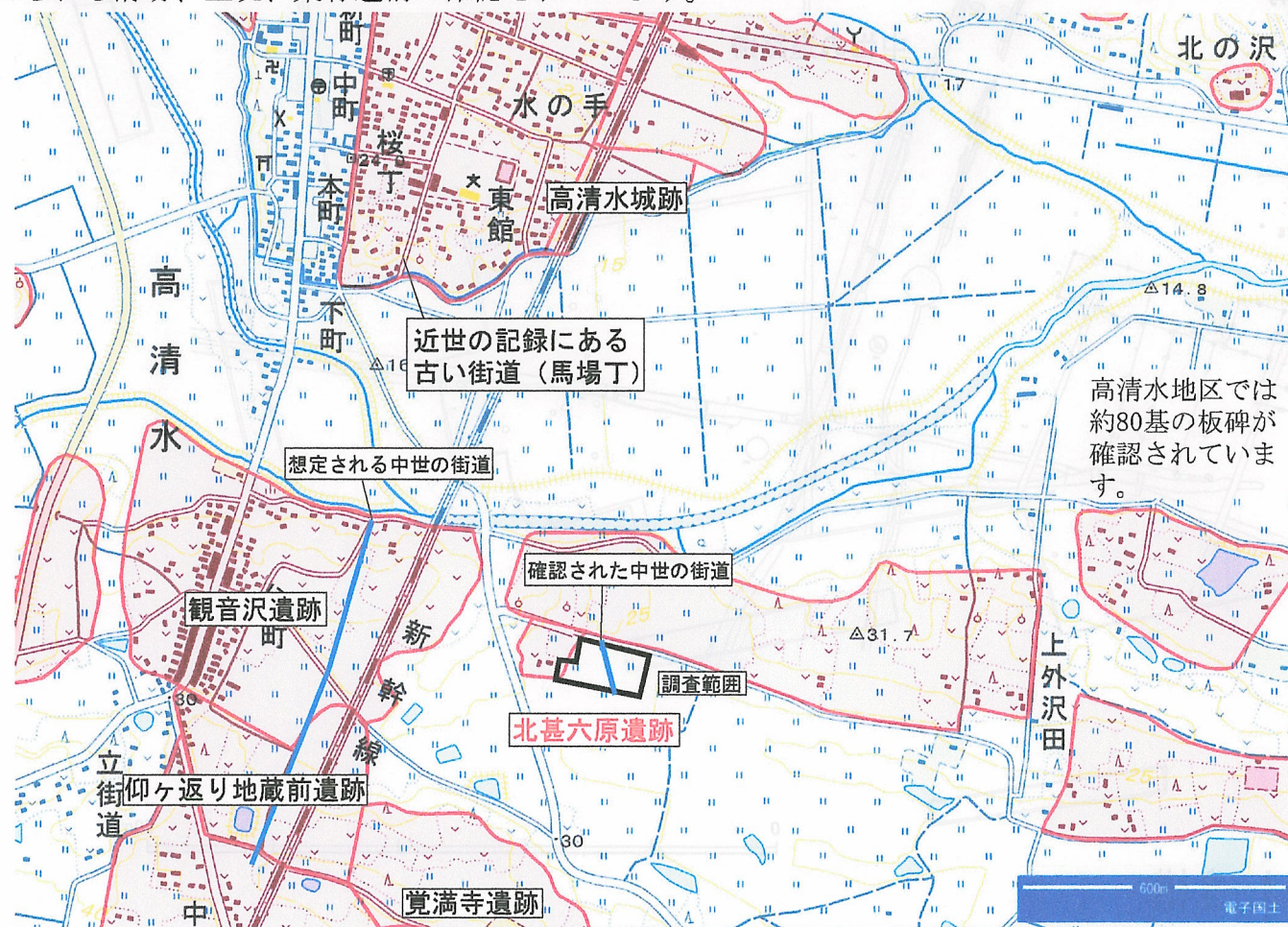
昭和51・52・54年度に宮城県教育委員会により発掘調査が行なわれ、掘立柱建物跡、大型の土坑、井戸跡が確認され、国産の中世陶器や中国などで作られた青磁、古銭のほか、木製品（曲げ物など）が多数出土しました。鎌倉時代後半から室町時代にかけての街道に面した集落と考えられています。

仰ヶ返り地蔵前遺跡

平成12年度に高清水町教育委員会により発掘調査が行なわれ、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、井戸跡が確認されました。出土した遺物から鎌倉時代後半頃のものと考えられています。南北方向に伸びる溝跡は道路側溝と想定されています。また、近年では東北学院大学による発掘調査により中世の瓦窯跡が確認されています。

覚満寺遺跡

平成8年に覚満寺遺跡調査会により板碑が所在する東側について調査が行なわれ、中世のものと考えられる溝跡、土坑、集骨遺構が確認されています。



第1図 北甚六原遺跡の位置と周辺の中世遺跡

3. 検出された遺構と遺物 ※裏面参照

縄文時代

遺物 縄文土器、石器

古代

遺構 竪穴住居跡、土坑
遺物 土師器、須恵器、瓦（軒丸瓦、丸瓦、平瓦）

中世

遺構 道路跡、屋敷跡4ヶ所（掘立柱建物跡、井戸跡、区画溝、大型土坑）
遺物 中世陶器（東海地方産、在地産）、青磁、土師質土器、石製品、鉄滓



古代の瓦（軒丸瓦、平瓦）



中世陶器甕



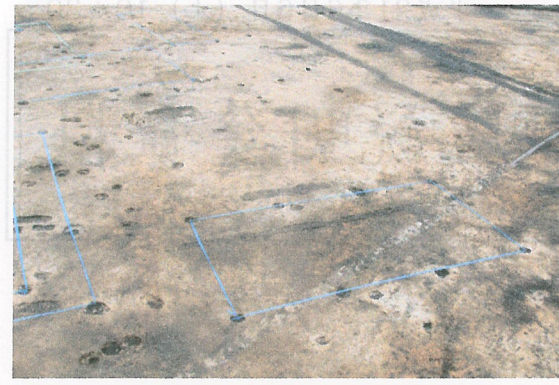
青磁

4. まとめ

- 北甚六原遺跡は標高約20mの低丘陵上に位置しています。約15,200㎡について調査を行い、古代の竪穴住居跡、中世の屋敷が確認され、縄文時代、古代、中世の遺物が出土しました。
- 今回の調査で特筆されることは中世の町並みが確認されたことです。道路跡の幅は約3.8mで、両側に側溝があります。道路西側では道路に面した屋敷跡1が確認されました。屋敷跡1は溝により区画されており、40m×40mの広がりを持ちます。区画の内部で確認された建物跡は道路跡と方向がそろえられています。また、道路の東側や屋敷跡1の西側では掘立柱建物跡と井戸跡から構成される屋敷跡が確認され、中世の遺構が広範囲に分布する状況が確認されました。宮城県内では中世の遺跡を広く調査した例は少なく、中世の景観を検討できる貴重な調査成果が得られました。
- 古代の遺構には竪穴住居跡3軒があり、このうちの1軒ではカマドの焚口部分を土師器甕3点を入れ子状にして補強していることがわかりました。出土遺物から8世紀後半頃のものと考えられます。
- 古代の瓦が出土していることから、周辺には古代の官衙や寺院にかかわる遺構が存在している可能性があります。



古代の竪穴住居跡のカマド



中世の道路跡と屋敷跡1



井戸跡の調査風景



中世の井戸跡



第2図 検出された遺構